

3日	午後2時～	・湯立		<p>大幣の竹で印を結ぶ～笹の葉と湯たぶさを湯に浸して舞庭の五法に振りかけ、花宿を浄める。</p> <p>願主の湯壺に湯を汲み、湯立ての裯い～湯たぶさ・柄杓・湯桶は湯棚の置かれる。</p> <p>天神地祇に献じ後に一般信仰者の祈願に応ずる。</p>
	休息	・楽の舞 ・式さんば ・順の舞	舞庭の行事 舞庭の行事 舞庭の行事	<p>・バチを持ち、宮人が一人で舞う。</p> <p>・鈴と扇で一人舞、菰の上。</p> <p>・三人舞。</p>
	花祭の行事	・市の舞	青年の舞	<p>・一人づつ三折。左手に扇と笹。</p>
	午後4時頃	・地堅の舞 扇 やちごま 剣	青年の舞	<p>・左手に扇、右手に鈴。</p> <p>・左手に木太刀、右手に鈴。</p> <p>・左手に剣、右手に鈴。</p>
	午後7時頃	・花笠の舞 ・花の舞・扇 ・花の舞・盆 ・花の舞・湯桶	幼児の舞 幼児の舞	
	午後10時頃	・山見鬼 (山割鬼) ・三ッ舞 扇 やちごま 剣	少年の舞	<p>・この頃からにぎわう。</p> <p>・伴鬼二人から山見鬼に・三ッ舞の扇役が松明を持ち伴に舞う。</p> <p>・山(竈を割る所作)</p> <p>・三人づつ三折。</p>
午前0時頃				
午前1時頃	・榊鬼 伴鬼 榊鬼		<p>・伴鬼から榊鬼に・三ッ舞の剣役が松明を持ち伴舞。</p> <p>・祢宜が改める問答の後に、2へんばいを踏み、三三九度を舞う。</p> <p>・伴鬼二人。</p>	
				N02

午前3時頃	一力花 ひの祢宜	祢宜の面形で、右手に五色の氏神の幣、右手に鈴。 女面・神子一人/おかめ親子/婆(孕み女)/娘の二人	一力花・一人の力で花祭りを立願を持って奉納する・立願の舞。 一力花はびゃっけの小型のもので、一力花と花の本は立願者が持ち帰る。 花の本・氏神の幣 消防団・舞手を指名できる。 ・それぞれ面形をつける。 ・祢宜が改める。 ・蠟燭にて先導。
午前5時頃	一力花 ・おちりはり 一力花 ・四ッ舞	潮吹き/鼻垂らし 少年の舞 扇 やちごま 剣	潮吹きと鼻垂らし・摺古木と五幣餅を持つ～舞う～見物人に擦りつける～おかめ親子、孕み女～四ッ舞を舞納める。 ・四人ずつで、上衣は持って舞～着て舞う。 ・左手にひいな翁幣、右手に鈴。
午前9時頃	・舞上 ・翁		・改める祢宜と問答あり。
午後12時	一力花 湯囃 舞庭掃除 ・朝鬼(茂吉鬼) ・獅子舞 一力花	少年の舞	・湯束を持って舞い、観客を浄める。 ・伴鬼から朝鬼 ・竹の柄と藁で出来た槌を持ち舞う～びゃっけの蜂の巣を打ち落とす。 ・弟子の鬼が大勢出て来て乱舞。 ・囃子方一人、氏神の幣を持ち舞う。 ・願主の願いで各種の舞を舞う。

4日	午後3時頃	花祭終了後の 神事 ・しめおろし ・神返し ・鎮め ・外道祓い ・荒神祭	神座の行事 神座の行事 外 神部屋	・花太夫、宮人の行事。 ・湯竈を回りながら、神々を返す。 ・すいのこの面を被った花太夫 が逆さ足で九字を踏む～反 閉～外道祓い。 一升櫛に米を入れ。 荒神幣など、祓い銭と一緒に和紙で包 み、おひねり状にした埴山姫と 一緒に麻で巻く・宝巻き。 花宿・今は世話人が朝鬼の使用した採 り物とともに持ち帰り、家の棟木に縛り つけ、悪魔祓いとする。 持ち帰った米は家族だけで食べる。
	午後5時頃			
	午前10時	・宮渡り		・祭具を納める。